

科目	どのような基準で学業成績の結果を出されましたか。提出された成績評価も踏まえてご記入ください。
L	最新のニュースやトピックスに関するレポート、細胞・組織の顕微鏡観察の課題提出、出席、グループディスカッションのプレゼンテーションなどを評価した。
L	レポート3回分の評価が80%（授業での発表担当者はその分のレポートを免除し、発表内容で評価）、出席率に授業内レポートの内容を加味した評価が20%で、その合計を最終の評価とした。約半数がSとなったのは、レポートにおいて書式と内容のバランスを重視し、表現、字句等の細かい点のチェックが少し甘すぎたためかもしれない。
L	出席、レポート、試験結果を総合的に判断した。
L	授業中に書かせたレポート、中間レポート、期末レポートの3点の提出と内容により評価しました。
L	現代的課題であるので、授業で紹介した背景を整理し、そこに自分の考えや気づきを文章としてきちんと表現できるかどうかを判定した。おおまかな課題内容を先に告示し情報収集を促しておき、試験時に制限（文字数やキーワードなど）を提示することで理解ができているかどうかを判定した。
L	レポートの評価はこの授業について関心を持った部分をより詳しく調べて深化させているかどうかという点でつけた。レポートを書く上で必要な形式つまり注釈のつけ方や引用に仕方が水準に達しているのかも加味した。ネット上の情報をそのまま鵜呑みにして、客観的な説明を心がけていない答案が目立ったのでそれは減点対象である。
L	中間テスト、期末テストの結果を踏まえ成績を出しました。
L	まじめにレポート課題（授業に出席していないとできない内容）をこなしているかを主な基準とした。
L	試験は選択式の試験を実施した。授業の全範囲から出題した。試験に際して持ち込みは一切認めなかったのも、あらかじめ学びネットにアップしている講義資料をもう一度しっかり学習しておくように指示した。選択式（マークシート方式）であるため、難易度としては難しいものではないと考えている。他に欠席をその日数に応じて減点した。約4%の者が不合格となった。 自由記述欄に「テスト問題が人によって異なるのは不平等に感じる。」との指摘があったが、選択語群の番号を入れ替えただけであり、難易度には全く影響するものではないので、不平等との指摘はあたらない。むしろカンニング防止の措置として列によって問題を別にした方が良いと考えている。
L	レポートの出来に、出席状況を若干加味した。
L	成績は出席の確認も兼ねて毎回提出を求めたレポート（50%）と期末試験（50%）により評価した。毎回提出を求めたレポートでは、授業内容のまとめを中心に、質問や感想（授業の進め方で改善してほしい点の指摘を含む）の記述を求め、授業の趣旨を理解してまとめられているかを基準に判定した。
L	学生の授業態度（出席率や提出物）と、レポートの質を評価した。

L	<p>■6つの課題(下記参照)それぞれを、なるだけ同点が出ないように1点きざみで完全に順位づけする。合計を課題の数「6」で割った平均を「提出点」とする。 ※ただし、未提出は50点扱いとし、課題を出した日に欠席だった等の事情による未提出についてはカウントしないものとする。</p> <p>■続いて、4班に分けた班活動の成果に対し、4段階で基礎点を与える(1位～4位を決めるということ)。ただ、これだけでは個々の差別化がはかれないため、打ち合わせの際の議長、振付の担当者、台本の執筆責任、ベストパフォーマンス賞など班の中にあつてとりわけよきはたらきが目立ったものについては基礎点に貢献点として相当分の加点を施し、これを「グループ点」とする。</p> <p>■前述の2つ(提出点とグループ点)の平均を「授業点」とする。</p> <p>■最後に、皆出席者には5点、1回だけ欠席には3点、2回以上の欠席には0点、居眠り・騒音等による非協力的姿勢には1回につき-1点という微調整を授業点に加える。 こうして得られた点数を最終評価とするが、振り返るに、妥当性・信憑性ともにきわめて高い最終結果であると自負するところである。</p>
L	出席率、課題やレポートの成績、授業に対する意欲などを総合的に判断。
L	テスト・レポート審査・発表・出席で総合評価した。
L	毎回行う授業後のコメント用紙は、事前準備をしてこなければ授業及び作品内容に踏み込めないため、授業に取り組む姿勢をコメント内容から判断し、成績評価に入れた。コメント用紙の評価に加え、最終レポートでは、授業中に説明したレポートの書き方を踏まえて全体が構成されているかを基準に、内容(論理展開や独自性など)を考慮して評価している。
L	15枚の課題プリントの評価により、平常点(60点満点)を出し、レポート点(40点満点)を加算して素点を出した。課題プリントは、すべてA評価なら60点取れるが、レポート未提出の場合は、不合格となる。成績の割合は、S:8名(19%)、A:15名(35%)、B:14名(33%)、C:2名(4%)、不合格:3名(7%)となり、過半数は、ほぼ合格ラインに達していたが、不合格の学生には、出席日数半数以下で授業を放棄した者以外に、出席数と平常点はほぼ合格ラインに達していたにもかかわらず、レポート未提出により不合格となった者が1名あり、残念だった。(メールにより、事情を確認したが、返信がなかったため、理由は不明である。)
L	授業への積極度、参加度については、出席カードに書かれた講義のまとめの内容からまた3回行ったプレゼンテーション活動、レポートなどを含めて、行動、内容などから総合的に行った。
L	毎回の「対話」の質と量を最も重視した。さらには授業のなかでのプレゼンテーションの内容。後者についてはかなりのレベルで学生たちは頑張ってくれたと思っている。
L	レポートを課し、提出されたレポートで成績をつけた。参考文献からのなまかじりのレポートではなく、つたなくともオリジナル性のあるレポートを高く評価したが、中にはインターネットからのコピー&ペーストで済ませようとする学生もいたので、それらについてははっきりチェックして0点評価とした。全体的にB評価が多かったが、もう少しA評価が出るように、授業全体を見直したい。
L	毎回の授業の最後に課した小レポート15回分、3回の授業外のレポートと1回の実験レポートの合計点数により評価した。
L	授業中の出席率と授業への積極的取り組み具合30%、教員が述べた授業テーマに関する授業後のコメントペーパーの合計評価(全部で10回程度)40%、2度のグループ発表の総合評価(学期前半最後のロシアに関するもの、後半最後の異文化としての日本に関するもの)30%。それぞれを数値化し集計した形で成績評価とした。なお、出席率が3回以上の場合ペナルティとして総合評価から減点している。
L	問題提起の独自性、それについての論述の論理性、展開性、事実関係における知識力。結論の当否はあまり重要視していない。そこにいたるプロセスを重視。

L	出席率、受講態度、授業テーマ別課題プリントの提出、最終レポートによる総合評価。
L	2回の小テスト、レポート、出席状況を総合評価。
L	最終課題を基本に、授業への積極的な参加、取り組みを加味して評価を行った。最終課題はレポートで身の回りの出来事、事柄を数学的に解析することを課した。特に、稚拙な数学であろうが、オリジナルのレポートであることが望ましい。ネットに載っていることよりも自身が本当に不思議に思ったこと、昔から不思議に思っていたことを数学的に解析する、または独自の考察を与えることを望む。また、ネットからの転載であっても、オリジナルな事柄が付け加えられている、もしくは、自分の言葉を使って論理的に書いてある内容であるか。
L	出席を含めた受講態度と期末課題の完成度を併せて総合的に評価した。「小中学生を対象とした宇宙に関するプレゼンテーション」を期末課題としたところ、宇宙旅行双六や、銀河・太陽系模型、巨大星図など、対象相手を意識しつつもアイデアをこらした様々な課題が提出された。
L	出席、授業参加度、課題レポート、試験を数値化して、集計した。質問時の回答内容、意見等によって、適宜加点対象とした。
L	数回提出してもらった「コミュニケーション・カード」は、どの程度授業内容が伝わっているかを見る材料としている。また、その中から、いくつか「きらりと光る」文章を抜粋し、匿名の「コメント集」として、翌週の授業で配布している。学生に「同じ内容を受講しても、こんなことまで考える人がいたのか！」という良い驚きを持ってほしいからである。学生には「コメント集に掲載されても、ただちに成績に反映されるとは限らない」と申し伝えてある。成績評価は、試験での課題に対する論述内容で決まることを常日頃から告知しているし、実際にそのような基準で評価を出している。ただ漫然と全回出席していても「この授業では書けなければどうしようもない」ということが受講生には浸透していると思われる。
L	この授業では、主に二種のレポート課題と授業態度とを総合して成績を評価した。レポートの一つは、授業前半で扱った『罪と罰』の読後感想文であり、もう一つは後半の講義内容を踏まえてロシアについて各自が関心を抱いたテーマを自由に選択し期末レポートとしてまとめるというものであった。いずれのレポートでも「自分の見解が明確に述べられているか」という点を重視した。例えば、『罪と罰』のレポートではグループや授業内での討論を踏まえて浮かび上がったテーマを更に深く考察し自分の意見を形成できている場合、また期末レポートでは、調べたことに加え、そこに現代の日本の社会や文化との差異または歴史的、地理的な関係性について考察が加えられている場合に特に高く評価した。
L	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して「感性」や「創造性」をどのように理解したか ・自身の設定したテーマにおける「感性」をどのように捉えているか ・自身の設定したテーマにおいて「創造」するためには何が必要かについて考察できているか
L	本授業では、期末のテストを課さない代わりに、授業期間中に5回の小レポート提出が課されており、毎回の予習と復習が義務付けられたかたちである。基本的にはこの5回分のレポート内容の出来不出来と、出席状況を加味して点数がつけられた。